

# Library News



京教図書館 News

2010  
2

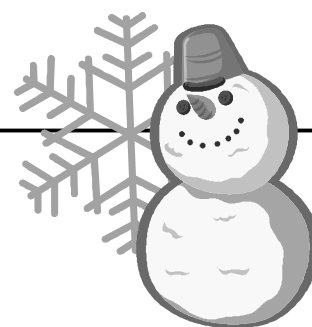
## 今月のトピック

### ●私のすすめるこの1冊

『The Stuff of Thought: Language as a Window into Human Nature』(Steven Pinker 著)  
今月は、英文学科・児玉先生にご紹介いただいています。

### ●論のくちび理のむすび(京都教育大学の紀要論文をご紹介)

今月は、国文学科 森山先生の論文です。



## 新型インフルエンザ感染防止にご協力を!

図書館の入口に消毒用エタノールを設置していますので、  
入館の際には必ず手を消毒していただくようご協力お願いいたします。

## <図書館開館スケジュール>

平日は9:00~21:00、土曜は9:00~17:00

※毎月第1水曜日は館内整理のため休館です

2

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
		1	2	3	4	5	6						
		~21:00	~21:00	~21:00	休館	休館	休館						
7	8	9	10	11	祝	12	13						
休館	~21:00	~21:00	~21:00	休館	~21:00	~17:00							
14	15	16	17	18	19	20							
休館	~21:00	~21:00	~21:00	~21:00	~21:00	~17:00							
21	22	23	24	25	26	27							
休館	~21:00	~21:00	~21:00	休館	休館	~17:00							
28													
休館													

3

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
		1	2	3	整	4	5	6					
		~17:00	~17:00	休館	~17:00	~17:00	休館						
7	8	9	10	11	12	13							
休館	~17:00	~17:00	~17:00	~17:00	~17:00	休館	休館						
14	15	16	17	18	19	20							
休館	~17:00	~17:00	~17:00	~17:00	~17:00	休館	休館						
21	22	23	24	25	26	27							
休館	休館	~17:00	~17:00	~17:00	~17:00	休館	休館						
28	29	30	31										
休館	~17:00	~17:00	~17:00										

※2月4日(木)~6日(土)は  
図書館のシステム更新のため休館です  
※2月25日(木)・26日(金)は  
大学前期入試のため休館です

※春季休業に伴い、平日は9:00~17:00、  
土曜は休館となります。  
※3月12日(金)は大学後期入試のため休館です

# 私のすすめるこの1冊

児玉 一宏(英文学科 准教授)

## The Stuff of Thought: Language as a Window into Human Nature.

/ Steven Pinker 著

本書は、進化心理学者 Steven Pinker による言語と思考をテーマとする最新の啓蒙書である。Pinker はハーバード大学教授で、2004年にタイム誌の「世界でもっとも影響力のある100人」の一人に選ばれたことでも有名である。Pinker は、本書を通じて、言語がヒトの内的世界をどのように反映しているかという問題と向き合い、心理学、哲学、物理学など様々な関連分野の知見を取り込みながら、同問題を明快に論じている。言語学の隣接分野との境界領域に迫る論考であるが、専門用語の使用を最小限にとどめ、平易な語り口で論じているため、一般読者にも貢献度の高い著作である。紙幅の都合もあり、本書の内容を網羅的に紹介することはできないが、以下では、Pinker の語る「言語の不思議の国」を覗いてみることにする。

まず、この図はいったい何に見えるであろうか。



ルビンの盃

これは有名なルビンの盃の図である。盃を見ようとすれば二人の横顔は見えなくなり、逆に二人の横顔を見ようとすれば、逆に盃は見えなくなってしまう。このような現象は「図と地の反転」と呼ばれている。現実世界の事実は唯一であっても、ヒトは現実世界を主観的に捉え、自分にとって意味のある情報を選択的に取り出すことで、世界を再構成している。Pinker は、このような出来事の

捉え方が、言語の世界では構文選択のプロセスに反映されていると論じている。

たとえば、「干し草をワゴンに積んだ」という出来事は、英語では二通りの構文として表現される。

(1) John loaded hay onto the wagon.

(2) John loaded the wagon with hay.

従来の学校文法では、機械的な書き換えとして処理され意味の違いが取り上げられることはまずないであろう。実は、(1)では干し草の量はいくらかでもかまわないが、(2)では「干し草で満たされている」という含みがある。干し草積みという出来事を、干し草のワゴンへの移動として捉えるのか、ワゴンの状態変化（ワゴンが干し草でいっぱいになる）として捉えるのかによって、構文の選択が動機づけられるのである。このように、Pinker は従来構文の書き換えとして処理されてきた数々の現象に、ヒトの出来事の捉え方の観点から、鮮やかな説明を与えている。

本書は全体を通して、思考の基本となる「移動」「所有」などの概念を柔軟に組み合わせてヒトがどのように言語を使用するかというテーマを中心に据え、透徹した論理で切り込んでいく。言語と思考のダイナミズムを解き明かそうとする本書の一読をすすめる。

最後に、2009年にNHK ブックスから訳書として『思考する言語（上）・（中）・（下）』が出版されているので、併せて参考にされたい。

原書：“The Stuff of Thought: Language as a Window into Human Nature” Steven Pinker 著

Viking Press (2007) 開架南館 2階 請求記号：801.01/P66

訳書：“思考する言語：「ことばの意味」から人間性に迫る” スティーブン・ピンカー著

幾島幸子, 桜内篤子訳 (上)・(中)・(下) NHK ブックス (2009) 開架南館 2階 請求記号：801/P66

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★図書館からのお知らせ★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

◆ 2月の臨時休館について ◆

2010年2月4日(木)～6日(土)は、図書館システム更新のため、休館いたします。これに伴い、2月4日(木)8:00～8日(月)9:00の期間、OPAC(蔵書検索システムおよび各種オンライン申込)は一切利用できません。その他の図書館ホームページは利用できます。ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力よろしくをお願いいたします。

◆ 春季休業に伴う休暇貸出について ◆

区分	学部学生	大学院生・教職員
貸出期間	1月21日(木)～3月29日(月)	1月7日(木)～3月15日(月)
貸出冊数	5冊	10冊
返却期限日	4月12日(月)	

- ・ 休暇貸出図書については、返却期限日の延長はできません。
- ・ 視聴覚資料は休暇貸出の対象外です。
- ・ 一般利用者の方は休暇貸出の対象外です。
- ・ 卒業・終了予定の人の返却期限日は2010年3月10日(水)となりますのでご注意ください。

◆ 卒業・終了予定の方へ ◆

1. 貸出期間の延長

卒業・終了予定の方の貸出は2010年3月10日(水)までとなっています。それ以降も貸出を希望される場合は、所定の手続きを行うことによって、2010年3月25日(木)まで延長できます。カウンターでお尋ねください。

2. 卒業後も図書館を利用される場合

一般利用者としてご利用いただけます。卒業後の利用案内・貸出カードの申請書は卒業時に配布します。3月25日(木)の卒業式・終了式の日から貸出カードを発行しますので、ご希望の方はカウンターでお申込みください。3月中ならば、お申込みの日に図書を借りることも可能です。なお、卒業後は本学の学生と利用条件が一部異なりますのでご注意ください。

2010年4月1日(木)以降の手続きには、①住所確認書類、②卒業生と確認できる書類(卒業証書または卒業証明書等)が必要です。カードは後日郵送になります。

※2010年3月末で本学を卒業・終了しない方で、貸出中の図書の返却期限日が3月10日(水)になっている方は、2010年4月12日(月)に変更になります。図書館への申出は不要です。

◆ 蔵書検索システムOPAC(オーパック)が新しくなります ◆

2月8日(月)より、図書館システム更新に伴いOPACが新しくなり、便利な機能が追加されます。

- ① 貸出ランキングがわかる!
- ② 新着図書がわかる!
- ③ 自分の貸出状況・申込状況・貸出履歴が一覧できる!
- ④ OPACで検索した図書の配置場所を一覧表示できる!
- ⑤ OPACで検索した図書の表紙が見える!
- ⑥ 携帯版OPACが登場!

…などなど。次号でも詳しく解説する予定です!

森山 卓郎 (国文学科 教授)

## 「幼児のけんかやいざこざ」にどう関わるか

### — 学生, 保護者, 幼稚園教員, 保育園保育士の場合 —

幼稚園などでは子どもが泣いている場面に出会うことがよくあります。そんな時どういう対応をとればいいのか—教育実習生、教員、保護者にとって、これは大きな問題です。そこで、泣いている複数の子を中心に子どもたちが集まっている場面の写真(実は5歳児のいざこざの後の場面)を取り上げ、①「事故?けんか?」というように、「どう見るか」、②「どう対応するか」、③「中の一人が仲裁の言葉を言っている場合はどう対応するか」、に分けて、それぞれの考え方を聞いてみました。対象は幼稚園教育実習未経験の本学学生、保護者、幼稚園の教員、保育園の保育士のみなさんです。

その結果、「可能性のある事態」「最も可能性の高い事態」として、幼稚園の教員は「事故」と考える割合が有意に低く、学生は高いことがわかりました。やはり経験は大事ですね。学生は事態をどう見るかの観点が獲得できていないようです。幼稚園教員は距離、顔つきなどから判定しているということです。対応については、「見守る」という対応が幼稚園の教員に有意に多く、学生に有意に少ないという結果でした。理由記述も含めて判断すると、幼稚園の先生には、直接的な介入を少し控えて、子どもたちの自立的な発達を促すという傾向が読み取れました。教育現場にはあえて「見守る」という対応も大切だと言えますが、実習生にはこうした考え方はまだ十分にはできていないようです。

さらに、ある子どもが「お互いに仲よく」という発言をしていたという「仲裁」の場合はどうでしょう。これもおもしろいことに、「そうだね、仲よくしようね」といった介入をするのは保護者には有意に多かったのですが、幼稚園の教員には有意に少なかったのです。学生の場合は「聞く」傾向が見られました。記述も含めて総合的に判断すると、幼稚園教員と保育園保育士は、少し現れ方の違いがあるものの、表面的な解決ではなく本質的な解決を重視していること、そして、なにより子ども達が自ら解決できる力をつけることを重視していること、などが明らかになりました。

このように、子どもへの関わり方における「大人」の考え方の違いを明らかにすることができたわけですが、このことは、子どもへの関わり方を考えさせる点で、教育実習指導のさらなる改善にも活かせます。

最後に、附属学校園の存在意義が話題に上ることがありますが、本研究は、附属幼稚園教員(兼任大学教員も含めて)が一丸となって教育・研究を進める「附属」ならではの成果だということも強調しておきたいと思います。

全文は第 115 号(平成 21 年 9 月)に掲載されています。

京都教育大学リポジトリ「クエリ (KUERE) の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/> でもご覧いただけます。

●蔵書検索 OPAC はこちらから

<http://tosh02.kyokyo-u.ac.jp/>

●京都教育大学附属図書館ホームページはこちらから

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

京教図書館 News No. 1 1 2 (2010 年 2 月号)

編集発行：京都教育大学附属図書館

発行日：平成 22 年 2 月 1 日

内容に関するお問い合わせ先：

附属図書館 (内線 8 1 7 9)



京都教育大学